



校長だより



日中丸



第24号
H29. 12. 4

日間賀中学校長
鈴木 康弘

城太郎先生に感謝する会 11.22(水)

11月22日(水)の「HINT A」の冒頭で、和太鼓指導を行っていただいている吉村城太郎先生に感謝する会を行いました。城太郎先生は、20年近く、日中生に和太鼓を教えてくださいました。今回の会は、3年生が、3年間お世話になった気持ちを表したいと、城太郎先生には内緒で企画・準備を行ってきました。感謝の気持ちを込めて、「日間賀の風」を演奏しました。城太郎先生からは、「みんな1つになろうという気持ちを感じた。和太鼓を通して学んだことや感じたことを中学校卒業後にも生かしてください。」とお話いただきました。3年生の成長とともに、日中生は和太鼓の演奏を通してたいへん多くのことを学んでいるなと感じました。



愛知県市町村対抗駅伝競走大会 12.2(土)

12月2日(土)に、愛・地球博記念公園(長久手市)において、「愛知県市町村対抗駅伝競走大会」が行われました。本校からは、笠島先生が南知多町代表として第9区を走りました。当日は、生徒や保護者、職員など40人ほどの人が会場に駆けつけて応援しました。笠島先生の力走に感動した1日でした。笠島先生、お疲れ様でした。また、応援いただきました皆様、ありがとうございました。

大会に先立って、11月27日(月)の朝会では、生徒の企画による壮行会が行われました。生徒からのエールの後、生徒会長から一人一人の応援メッセージが書かれたハチマキを手渡しました。



PTAスポーツ研修会・教育を語る会 11.27(月)

11月27日(月)に、「PTAスポーツ研修会・教育を語る会」を開催しました。スポーツ交流会では、本校教員と保護者が4チームに分かれてソフトバレーボールを行いました。珍プレーあり好プレーありの、笑い感動の研修となりました。その後に行われた教育を語る会でも、楽しいひとときを過ごすことができました。この会を通して、本校教員と保護者の親睦がさらに深まったように思います。

ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。



生徒発表 (11月のテーマ：私が薦める本について)

北川七唯さん (3年)

私がお薦めする本は、「続かないと思っていた恋だけど、今日もあなたはそばにいます」です。この本は、主人公が中1から片想いしていた相手と卒業式でその恋を实らせ、大人になり、その相手の人と結婚するまでを描いたストーリーとなっています。実話を基にした本で、ツイッターですごく話題になりました。コメント欄には、「感動した」「すごくよかった」などと書かれていて、実際に私も読んでみたら、すごく感動しました。女子はもちろんですが、恋愛小説になじみのない男子でも読める本だと思います。興味のある人は、ぜひ、読んでみてください。

笠島哲先生の話

こんな話をしてくれました。

みなさんは、誰かから勧められた本を読んだことがあるでしょうか。私もそうですが、やっぱり自分の読みたいと感じる本の方が面白い気がするし、読む気が起きますよね。でも、私は人から勧められたある本が、その後の人生を変えたかもしれないと思っています。今日は、その1冊の本を紹介します。



それは、オグ・マンディーノの「十二番目の天使」という本です。私が小学6年生のときに、校務主任の先生に勧められて読みました。内容は省きますが、十二歳の笠島少年は本を読んで初めて泣き、感動のあまり読書感想文を1日で書きあげてしまいました。そしてなんと、数ヶ月後の朝会で、私の感想文が表彰されました。朝会後は、前の年に僕の担任だった先生が「さすが国語の得意な哲君だね!」と褒めてくれました。そのころは、自分の得意な教科が思いつかないほど勉強が嫌いだったので、自分が国語を得意だとは一度も思ったことがありませんでした。その日から、「自分もしかしたら国語が得意かもしれない…?」とちょっとだけ思いながら授業を受けるようになりました。中学に入っても、高校に入っても、「もしかしたら自分は国語が…」と思いながら授業を受け、10年経った今、国語の先生として働いています。あのときこの本で読書感想文を書いていなかったら、先生が褒めてくれなかったら私は今国語の先生になっていなかったかもしれません。このように、本の内容だけではなく、本を読んだ事実そのものが人生を変えるきっかけになることもあります。新しい人生との出会いを求めてあまり興味が出ない本を読んでみるのもよいかもしれません。

校長の話

こんな話をしました。

先週は、君たちへエールをいただく機会が何度かありました。

1つ目は、城太郎先生からです。水曜日の「HINT A」の時間に、3年生の気持ちのこもった演奏の後に、城太郎先生は、

「みんなで1つになろうという気持ちを感じた。和太鼓を通して学んだことや感じたことを中学校卒業後にも生かしてください。」

とおっしゃいました。3年生の城太郎先生に対する感謝の気持ちがしっかりと伝わったからこそこの言葉だと思います。ただ、この言葉は、3年生だけでなく日中生全員へのエールだと思いました。君たちは和太鼓の練習を通してたくさんのことを学んでいます。城太郎先生のエールに応えるためにも、学んだことを生かして行ってほしいなあと思います。

2つ目は、「日間賀サミット」の場でのことです。「日間賀サミット」には全員が参加したのではないので、この場で紹介します。サミットのはじめに、高校卒業後に島に戻って民宿を営んでいる方からお話をいただきました。その方が島に戻ってくる決め手になったのは、実家を継ぐという強い想いと日間賀島が好きだという想いだったそうです。そして、最後に、

「小中学生も島をよくしたいという想いをもってもらいたい。」

「一緒に、にぎやかできれいな自慢できる島にしましょう。」

とお話してくださいました。また、サミットの最後に話された方は、

「サミットは、小中学生と大人が真剣に話し合うすばらしい会だと思う。まとまりのある日間賀島ならではの取組だと思う。この日間賀島で育つ子どもたちには、考えて意見が言える子、それを実行できる子になってほしい。大人はそれを支えていきたい。」

とお話してくださいました。

君たちも、この日間賀島が大好きだと思います。それは、この2人のように君たちを大切に想い支えてくださっている方たちがたくさんいることが理由の1つだと思います。その想いに応えるためにも、一人一人が「知恵」と「声」と「汗」を出し、日間賀島をもっともっと元気な島にできようがんばっていきましょう。